

No.39

2019.10.15

発行編集：日之影町議会報編集委員会

ひまわり 議会だより

牛と共に半世紀。
みこぼちにはおかれて名人へ

(池田定之七也未撮)



平成30年度決算認定 □ P25
一般質問 □ P25
決算審査委員長報告 □ □ P33
意見交換会 □ □ P33

9月定例議会

令和元年第3回定例会は、8月29日に開会し、報告2件・同意2件・認定8件・議案12件を原案のとおり可決した。一般質問には、3名が登壇し、町長・教育長に質問、9月18日に閉会した。

平成30年度
一般会計
決算

道の駅リニューアル等で、 大幅増額となる

〈概算〉

(歳入合計)

(歳出合計)

(差引額)

59億3389万円-57億8082万円=1億5307万円

日之影町庁舎建設特別委員会

■中間報告書

今日まで特別委員会では、7回の委員会開催と9か所の視察研修を行い、町民サービスの向上や誰もが利用しやすい庁舎、後世に財政負担をできるだけ残さない庁舎建設を目指し調査検討してまいりました。

今回、提出された実施設計は、各分野からの要望事項の反映とコスト削減や機能性を考慮し、防災拠点となる庁舎設計となっていることは一定の評価をするものであります。しかし、消費増税や建設資材の高騰により建設費の増を踏まえると、起債と基金活用の割合は重要視されなければなりません。

議会としては、予算審査報告と同様、基金を5割以上活用することを提言するものであります。

その背景は、中山間地における人口減少と少子高齢化、更には低迷する社会経済情勢と町民アンケートの多くの意見にあった身の丈に合った庁舎建設を考えると、後世への財政負担を最小限にすることが望ましいと考えます。

議員発議

■発議3号

提出者 河野 學

「国土強靱化対策の推進を求める意見書」提出

近年、全国各地で発生する大規模災害により国民はその脅威にさらされています。

市町村は、災害対応の最前線に位置しますが、脆弱な財政基盤の中で住民の安心・安全への対応は十分と言えないのが現状であります。

このようなことから、国に対し国土強靱化対策をより一層推進されるよう、強く要望するものであります。

同意二件

■西臼杵郡公平委員会委員

甲斐 治夫氏（五ヶ瀬町）を選任
(任期) 令和元年11月17日から

■固定資産評価審査委員会委員

押方 良章氏（松の木集落）を再任
(任期) 令和元年9月27日から

令和4年9月26日までの3年間

平成30年度決算審査特別委員会委員長報告

委員長 一水 輝明

平成30年度の決算は、歳入で前年対比21%、歳出では22%の大幅な増額となったが、その要因は大型ハード事業である。

一般会計及び特別会計の各施策に影響を与えることなく、財政指数も健全であることから一定の評価はできる。

このことは、行政が一体となって交付金や起債等の有利な事業を積極的に取り入れ、更には、基金等も活用し努力をしたことが数字に反映されている。

他方、職員給与のラスパイルス指数や首長給与も県内では下位に位置し、処遇改善も将来的に一考すべきである。

病院事業については、他の公立病院と同様に依然厳しい状況となっている。新たに設置された「西臼杵公立病院部会」による経営統合・再編に向けた協議に注視したい。

また、農業法人「ひのかげア

グリファーム」においては、新たな事業としてドローンを用いて水稲薬剤散布も導入されているが、受託作業においての安全対策に万全を期していく努力が必要である。

中山間地を取り巻く情勢は、超高齢化社会を迎え人口減対策等、厳しい環境であるが、従来施策に加え、行政・議会・民間が知恵を結集し、住民一体となった取り組みが肝要である。



《植え付けが済んだ白菜畑》

監査意見書

(抜粋)

〔一般会計について〕

平成30年度の一般会計については、大型事業の実施により歳入で対前年比20・9%の増、歳出においても対前年比22・3%の増と大幅に増加した。自主財源比率では、16・8%（前年度15・3%）と1・5%の上昇となっており全体的に安定した、財政運営が伺える。歳出については、事業の主なものとして、本町観光の拠点となる道の駅「青雲橋」のリニューアル事業、新庁舎新築移転に伴う放送センターの建築移転などの関連事業、道路網の整備、などが着実に実施された。今後、新庁舎建設事業も動き始め、跡地利用など、町民意見を聴取しながら、より良い活用を期待するものである。

■指摘事項

○借地の買い取り等は、計画的に進められているが、今後とも更なる解消に向けて取り組みをこころむこと。

○道の駅「青雲橋」のグラウンド

オープンに向け、更なる運営充実に努めること。

〔病院事業について〕

平成30年度の決算は、入院、介護、その他医業収益はそれぞれ患者数の増により増加しているが、外来患者数は減少しており、医業収益は減で、厳しい財政状況となった。

■指摘事項

○西臼杵三町での広域化へ向けこの、具体的な協議の推進。
○受贈財産の適正処理について。



《更地となった町民センター跡地》

総括質疑

◆総務文教常任委員会

1 学校教育について

〔問〕 心身ともに優れた児童生徒を育成するための、多様な教育活動の展開と、町民の負託に応える教育活動の改善・充実について伺う

〔教育長〕 教育活動の展開については、知・徳・体のバランスを考慮しながら様々な教育活動を行っている。また、教育の視点からできることとして、地域の活性化と人材育成の礎を築く取り組みを進めている。

2 病院経営について

〔問〕 病院経営は、依然として厳しい状況にあり町民の関心も高い。前年度における対応策は

〔町長〕 空調器を全館方式から個別方式に入れ替えた。光熱費の削減や看護師の採用を最小にするなどの経費削減を行った。現在、「西白杵地域公立病院部会」の中で広域化に向けてコンサルによる計画を進めている。

3 交通インフラ整備について

〔問〕 住民の利便性を図り、すまいるバスのより良い運行を目指すため、町民アンケートの結果に基づき課題は

〔町長〕 町民アンケートの結果を踏まえ、免許返納者への足の確保、買い物支援、ドライバールの確保等も合わせた問題解決のため、地域交通のあり方についての対策会議を行った。

4 健康増進について

〔問〕 各種検診の受診・予防体制の推移と未受診者と疾患があらながら医療機関にかかっていない方に対する対策については

〔町長〕 国保特定検診・各種がん検診・ヤング検診を勧め、早期発見・発病予防に取り組み、30年度受診率は67%となり、県内5番目の高さであった。また、未受診者等の方には、家庭訪問・電話等で受診向上に努めた。

5 第7期介護保険事業・高齢者福祉事業の計画について

〔問〕 生活支援サービスや生活支援ハウスの運営及び地域にある資源を組み合わせた介護サービスの確保の取り組みについては

〔町長〕 「ふれあいネットワーク」と連携を図り、安否確認、見守りを行い、地域全体で助け、支え合う活動や、「まさのや」等のボランティアの方による支援も行った。

◆経済建設常任委員会

1 農林業の振興について

〔問〕 「ひのかけアグリファーム」において、作業受委託を柱とした業務を展開したが、人材は充分に足りているのか伺う

〔町長〕 水稻育苗、各種受託作業は、1・5倍、4・5倍の実績があり、今後も増加することが予想されるので、新規採用を含め必要人材確保に努め、作業時期が集中することから作業員の健康管理にも留意していく。

2 地域資源を生かした起業の推進と商工業の振興について

〔問〕 新規起業・創業を対象としたふるさと起業応援事業の成果を

〔町長〕 ふるさと起業応援事業補助金等を活用して、30年度は2件の新規起業を含め、これまでに35件の支援を行ってきた。

〔問〕 自然エネルギー分野と連動した産業振興の成果と課題は

〔町長〕 保健センター・中学校では、太陽光発電を活用し非常電源に使用している。また、各地の小水力発電での売電収入や、温泉駅では、木質バイオマスボイラーの

燃料として出荷できない木材に付加価値を付け利用している。現在、風力発電について計画も進めている。

3 定住・移住・uーJターン

の促進について

〔問〕 定住自立圏構想協定に基づいた対策や宅地整備検討委員会での協議された内容について伺う

〔町長〕 木質バイオマス、高速道路の建設促進、雇用の確保、自治体クラウドの整備等を進めてきた。宅地整備検討委員会では、様々な意見があり、宅地整備に必要な意向調査、他の自治体の視察を行い、空き家対策も含め課題解決に取り組んでいく。

4 観光振興について

〔問〕 世界農業遺産・ユネスコエコパーク・森林セラピーを生かした本町独自の研究や実施に取り組んだ内容と実績については

〔町長〕 森林セラピーでは、マインドフルネス講座を2回、福岡市の女性を対象としたモニターツアーを2回開催した。また、ポルダリングについては、地元住民との協議を重ね、会場へのアクセス等環境整備を行った。今後、自然を生かし滞在時間の長い観光施策を進めていく。

森林環境譲与税の基金を設置

補正総額

3479万円

補正後の総額

57億5607万円

歳出の主なもの

■ 総務費	(新庁舎建設事業費等)	5232万円 減額
■ 農林水産業費	(宮崎県家畜競争力強化整備事業補助金 及び林道の橋梁点検診断委託事業等)	3590万円 追加
■ 衛生費	(病院事業会計繰出金等)	5570万円 追加
■ 諸支出金	(森林環境譲与税基金)	1700万円 追加
■ 災害復旧費	(町道の災害復旧費等)	1597万円 追加

一般質問

一般質問とは、議員が行政全般にわたって執行機関に対し、施策の状況や方針などについて説明や報告を求めるものです。

「道の駅」の課題とその取り組みは

町長

本町観光の拠点施設であり利便性の向上に努める



工藤 英信
議員

問

4月にオープンした道の駅「青雲橋」の見えてきた現状と課題を踏まえて、グラウンドオーブンに向けての取り組みを伺う

町長

ハード面において、駐車場や出入口が狭く入りにくい、工事が完了すると解決すると考える。また、延岡方面から「道の駅」が分りにくい、のぼりなどを掲げること検討する。ソフト面においては、農産物の品揃えにおいて野菜集荷の実施、栽培講習会の開催、手数料の引き下げに取り組んでおり、更なる従業員の接遇研修を行う。レストランにおいては、メニューの改善や目玉となる商品開発を行う。

問

平成28年の熊本地震において、中学校校舎の壁に亀裂が複数あり、その対策と教育関係施設の現状について伺う

町長

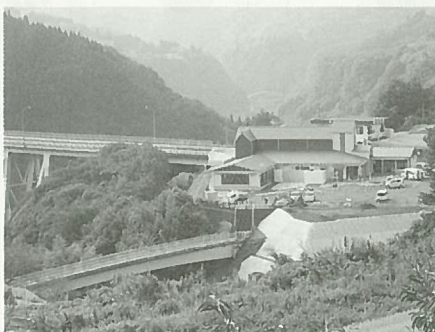
コンクリートの劣化状態を検証する調査を実施し、その結果を踏まえ安全な状態が維持でき

問

全国学力・学習状況調査の結果が公表され、宮崎県また県北部地区において、小学校の国語以外の教科は全国平均を下回っている。本町の現状と今後の取り組みを伺う

教育長

本町の現状は、小学校において、国語は県や全国平均を上回っており、算数は県・全国平均と同程度である。中学校においては、国語は県・全国平均と同程度で数学は県・全国平均を大きく上回っており、英語は県・全国平均をやや下回っている。町全体としての子供たちの学力は県内でもトップレベルである。



《周辺整備が進む道の駅》

五ヶ瀬川水系を活かした今後の観光行政は

町長

河川の資源回復と、観光施策の更なる充実に努める



高 舘 英 嗣
議 員

問 本年度のキャンプ場及び宿泊施設の利用状況について伺う

町長 近年、夏のシーズンになると、町外の方々を中心に多くの家族連れがキャンプ場に訪れている。「ロケーションゴルフイベント」では、県外の方を中心に、2日間で250名の方々が本町を訪れたと伺っている。今後、様々な要因から宿泊者が増加する事が予想されるがそれに先駆けて、本年「ゲストハウス」が一軒オープンするとともに、現在農家民泊がオープンに向けて準備を行っているところである。今後とも近隣市町村や、観光協会、民間宿泊施設と連携をとりながら、更なる取り組みを行っていく。

問 水質良好な河川6年連続1位となっている五ヶ瀬川の水性動植物の状況について伺う



《改善が求められる施設》

町長 海産稚鮎につきまして、平成26年までに1t、平成27、28年には300kgが捕獲されていたが、平成29年より2年間休止し、昨年は一時的に流下仔魚数が増加した。しかし、本年、海産稚鮎の捕獲を再開したところ、鮎の遡上数が再び減少したため、来年の捕獲は見合わせの運びとなった。本町においても、淡水魚の維持回復のために、漁業組合と協力し、放流を行っている。様々な要因が考えられるが、漁業組合や関係機関と連携をとり、河川の資源回復に向け取り組みを行っていく。

「潜在住民」に期待、人口減少対策を

町長

今後も国や県の支援策と併せて、各種取り組みを進めていく



甲 斐 陸 彦
議 員

問 《農業の担い手として定年帰農者への支援策》

既存の、ひのかけ就農支援金は15歳以上65歳未満であり実績も上がっており有難い事業だ。しかし昨今65歳定年制度が拡充されつつある。65歳以上にも拡充すべきではないか伺う

町長 担い手の減少・高齢化は年々進んでおり重要な課題である。帰郷し就業される方への支援により、担い手確保に取り組む。

問 《地域おこし協力隊の任期満了後に定住の支援策》

隊員の応募の理由としては「赴任先で定住を考えており活動を通じて定住の為の準備が出来る」と思ったから」が38%を占める。本町に於いても1名の方が定住された。

今後も移住定住へ向けての支援策を伺う

町長 現在、定住に向けての住環境への補助事業・起業支援事業があり今後、定住へ向けて隊員との話し合いを密にして定住を促進する。

問 《宮崎県人口減少対策基金を活用した取組》

基金30億円にて本年6月に創設された。中でも「人を呼び込む」移住定住の促進は各課連携した取組みにより期待が大きいと考えることから町長の考えを伺う

町長 地域課題解決に向けた起業の支援など基金活用が可能であるものについては実施する。



《町観光協会働く地域おこし協力隊》

所管事務調査報告書

◆総務文教常任委員会

急がれる

高齢者福祉対策!!

【調査実施日】

令和元年7月18日(木)

【調査事項】

1 高齢者の見守り対策

一人暮らしの高齢者、及び重度身体障害者に対し、緊急通報システムを設置することにより、日常生活上の緊急事態におられる一人暮らし高齢者の不安を解消し、速やかに対象者の救助を行うシステムの現状について。

実際利用している所で現地調査を行い、試験コールの実体験をした。思った以上にシステムの操作が簡単で分かりやすく、普及啓発すべきと感じた。個人負担は発生するが、急病などの緊急事態時には、迅速な対応ができることから、



《緊急通報装置》

今後利用者が増えることも予想されるので、当事者の目線で検討することが求められる。議会としても、避けて通れない超高齢者の中で、買い物支援や見守り、免許証返納に伴う交通手段の確保等、総合的な取り組みが必要である。

◆経済建設常任委員会

TR 鉄道跡地を

観光資源に!!

【調査実施日】

令和元年7月30日

【調査事項】

1 TR 高千穂鉄道跡地

2 京の元町有林

■日之影第1トンネル

長さ459mのトンネル内は、外気温の差があり、夏場の涼を楽しむには最適な環境である。平成17年災から14年経過したが、内部構造もしっかりしており、温度差を活かした地場産物の貯蔵、観光にも有効利用が望まれる。官民一体となり、アイデアを出し合いながら再開発すべきと感じた。

■京の元町有林

(杉 2,022本、ヒノキ328本、樹齢54年〜55年)

平均胸高直径も40cm近く有り、間伐も良く管理されていた。材質については、既に試験材で見られたように庁舎建設に十分に対応できると思われた。再造林に関しては、旭の森として広葉樹を植栽する計画が上がっているが、子どもの木育についての教育の場としての活用が求められる。最後に、木の香りが感じられるような庁舎建設に期待する。



《TR高千穂鉄道跡地調査》

意見交換会

議会に対しての活発な意見!!



《八戸本通り公民館》

■八戸地区公民館連絡協議会

【日 時】 令和元年7月26日 午後7時より

【場 所】 八戸本通り公民館

【出席者】 39名

令和に入り、初めての公民館対象の意見交換会を開催し、多くの皆様に参加をいただきました。

内容として、環境大臣賞を受賞した伝統ある「緑の少年団」の存続について、増加する空家対策、郵便局での行政サービス、IT企業の誘致、「道の駅」のバス整備、セラピーロードの環境整備など、多くの貴重な提言、要望がありました。

八戸地区は、行政施策に対して関心が高く、議会等に対しての厳しい意見もあり、今後、十分に意見が反映できるように努めてまいります。

中央地区活性化に力を!!

■新日之影いきいきクラブとの意見交換

【日 時】 令和元年7月14日 午前10時より

【場 所】 新日之影公民館

事前に木下会長より課題提出を受け、意見交換を行いました。説明事項については、現在進んでいる事業や、中央地区活性化協議会で行っている意見なども踏まえて報告しました。要望事項については、高齢化等体力的に負担となる事業や、施設の老朽化等環境整備に係る意見、今後の中央地区に対する前向きな意見が多数あげられました。

今後とも、どの世代もが住みやすい町の形成に向けて住民目線に立ち、提案や意見を提出できるようにしていきたいと思えます。



《新日之影地区意見交換会》

地道な支援活動に感謝!!



《民生委員との意見交換会の様子》

■民生委員児童委員協議会

【日 時】 令和元年7月25日 午前10時より

【場 所】 役場中央研修館2階会議室

【出席者】 民生児童委員 24名

今回、民生委員児童委員協議会との意見交換会は、昨年に引き続き2回目となる。日頃からそれぞれの地域において、身近な相談相手として生活や福祉全般に関する相談・支援をされている。

はじめに、協議会の活動状況が報告された後、意見交換を行った。主な内容としては、災害による町道の早期復旧、町営住宅バリアフリー化、中央地区の活性化、庁舎移転に伴うすまいるバスの路線の見直し等、そのほか福祉に係る課題・見直しについての多くの意見を聞くことができた。

今後とも、様々な課題解決に向け、努力してまいります。

■ 表紙紹介 ■

今回は、池田定之さん(84歳) 操さん(80) 歳を紹介します。

Q 1 いつから牛を育ててるんですか。

池田さん 子どもの頃から居て、その当時は馬もいた。

Q 2 田んぼが4反あるそうですが、夫婦で田植えから稲刈りをしてるんですか。

池田さん はい、2人で仲良く行ってます。今でこそ機械ですが、昔は、田んぼをすく時に牛ですいたりしてました。

Q 3 昔から牛を育ててますが、大変なことはなかったですか。

池田さん 今は一頭ですが、昔は7頭いました。牛が安くて3頭出しても70万円ぐらいにしかならないほど安かったことですかね。

Q 4 ミツバチの箱を設置してるみたいですが、どのくらい設置してるのですか。

池田さん 30個ぐらい設置してます。昔は40個ぐらい設置して、遠くは、宇納間線の門川近くに設置したこともあります。

Q 5 ミツバチの箱の設置は面白いですか。

池田さん 毎日欠かさず、ミツバチが箱に入ってるか確認をするぐらい楽しいです。今年は、赤バチに1つヤラしました。

Q 6 大菅小学校での思い出は何でしょうか。

池田さん 昔は小学校の裏に集会室があり、ミニバレーをして楽しんだことです。サーブを打つと天井に引っかかったりしてました。

Q 7 お孫さんがパイロットと伺ったんですが。

池田さん 先だって、孫の操縦するJALの旅客機で、熊本から羽田まで行き、東京旅行を楽しんできました。

Q 8 娘さん夫婦に一言。

池田さん 自分の息子と思って、これからずっと家族みんなで仲良く元気に過ごしていこうね。



議会傍聴のご案内

次回の定例会は12月に開会されます。皆様の傍聴をお待ちしております。また議会では、町内の団体や地域の方々との意見交換会を行っています。お気軽にお問い合わせください。その他議会に対するご意見等もお聞かせください。

【お問い合わせ】議会事務局 TEL87-3908

フォトコーナー



《スタンドアップパドル（旧吾味駅付近）》



《八戸小学校最後の運動会》



《収穫前の田園風景》



《鹿川ピック》



《庭先で色づいた柿》



《小さい秋見つけた》

編集後記

昨年10月に議会へ送り出して頂き、早いもので1年が経過致しました。この間12月、3月、6月そして9月定例会と4回の、ワンクールを無我夢中で努めてきたところです。初めての経験で、まだまだ至らないことがありますが、一生懸命頑張っています。

また、広報委員会も、新メンバーとなり心を新たにして作成に努めて来ましたが、今後も委員会での活発な議論を繰り返し、より詳しく、読み易い紙面を心がけてまいります。

町民の皆様のご愛読をお願い致しますとともに、ご意見、ご感想をお聞かせくだされば幸いです。

小谷 幸治

発行責任者

議長 甲斐徳仁

議会報編集委員

委員長 一水輝明

副委員長 高館英嗣

委員 工藤英信

委員 小谷幸治

委員 小川輝久